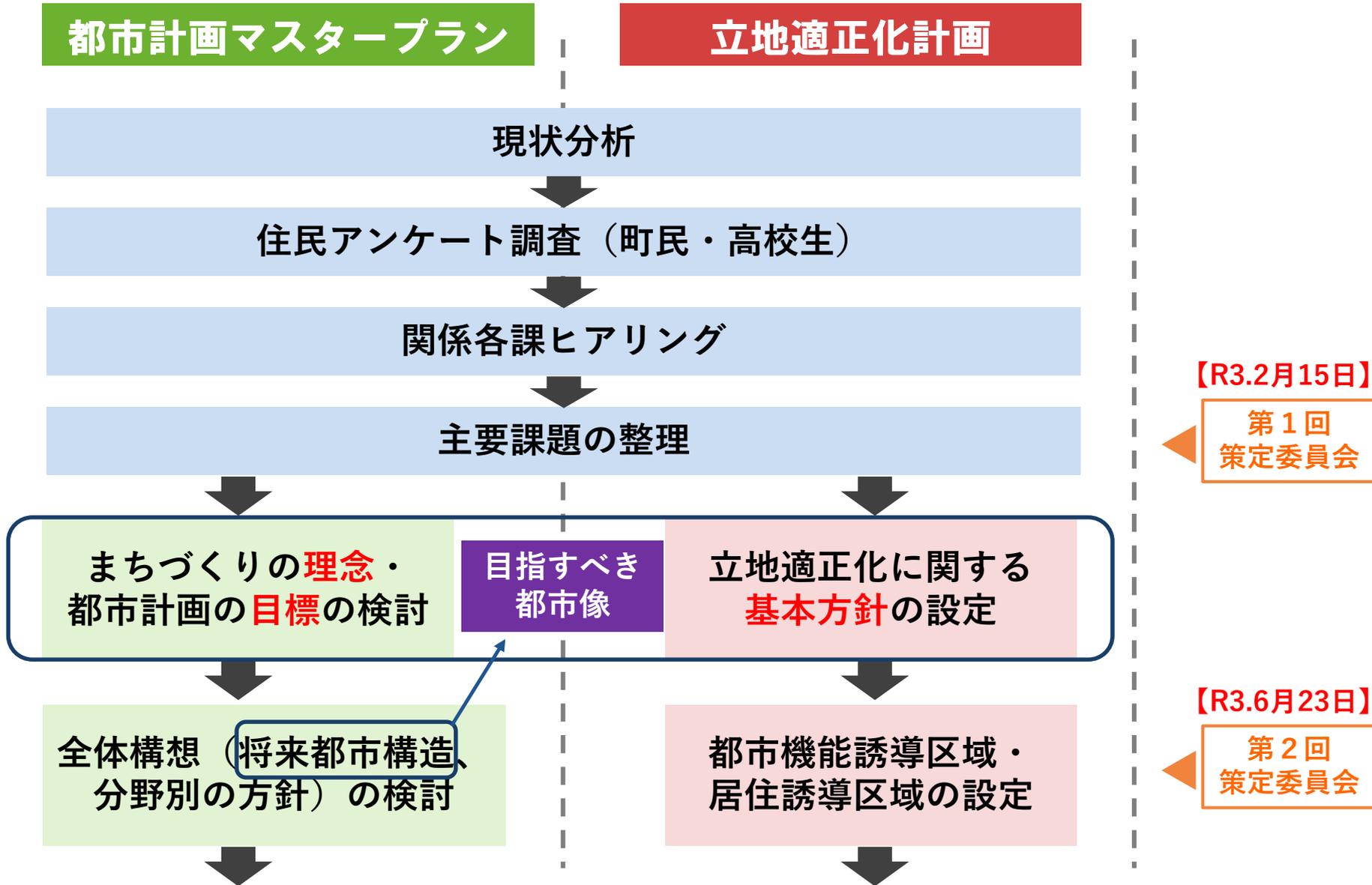


**第2回 久万高原町
都市計画マスタープラン等
策定委員会**

令和3年6月23日（水）13：30～



都市計画マスタープラン

地域別構想（久万地域、
面河地域、美川地域、
柳谷地域）の検討

実現化方策の検討

立地適正化計画

誘導施設・誘導施策の
検討

防災指針の検討

目標の達成状況に
関する評価方法の検討

計画（素案）の作成

パブリックコメント・住民説明会等の実施

都市計画審議会・議会への報告

計画の策定

【R3.9月頃】

第3回
策定委員会

【R3.12月頃】

第4回
策定委員会

※開催時期等
は予定です

▶ 計画構成 (案) については資料 1 参照

資料 1

■ 計画書構成 (案) 及び策定委員会の検討内容

都市計画マスタープランは、町内全域を対象とした「全体構想」(目指すべき都市像、分野別の整備方針)と4つの地域(久万地域、面河地域、美川地域、柳谷地域)ごとに定める「地域別構想」による構成とする。
一方、立地適正化計画では、都市計画区域を対象とし、立地適正化に関する方針の検討、誘導区域や誘導施設、誘導施策の検討のほか、居住誘導区域に残存する災害リスクに対する防災指針や目標の設定等を行う。

■都市計画マスタープランの項目と記載内容 (案)

項目	記載内容の概要
序章 はじめに	計画の背景と目的、位置づけ、対象範囲、目標年次
第1章 現状と課題	
1 久万高原町の現状	自然・歴史・社会的条件の整理
2 町民意向調査	町民アンケート調査・高校生アンケート調査の結果
3 都市づくりの課題	主要課題の整理
第2章 目指すべき都市像	
1 都市づくりの理念・目標	都市づくりの基本的な考え方・テーマ
2 将来フレーム	目標年次の将来人口、将来的な市街地の規模
3 将来都市構造	目指すべき都市像のイメージ及び拠点・軸・ゾーンの考え方
第3章 分野別の整備方針	
1 土地利用の方針	土地利用の区分及び土地利用の配置方針
2 都市施設等の方針	
(1) 交通施設	主要幹線道路、自転車・歩行者空間、公共交通機関等の方針
(2) 河川・下水道	河川の整備、下水道の整備方針
(3) その他の施設	教育・文化施設、供給処理施設、公営住宅等の方針
3 市街地・居住地整備の方針	既成市街地における都市機能の増進と住環境の改善等
4 自然環境保全の方針	優れた自然環境(樹林地、農地、水辺地等)の保全、都市公園等の整備方針
5 都市防災の方針	災害に強いまちづくりの推進、火災対策、地震対策、風水害対策
6 景観形成の方針	景観形成の基本方針、景観行政の推進
7 医療・福祉関連の方針	医療施設、福祉施設の方針
第4章 地域別構想	
1 地域区分	地域別構想の役割、地域区分の考え方
2 久万地域	
(1) 地域の概要	地域の人口・高齢化、アンケート結果等を踏まえた課題
(2) 地域づくりの目標	地域の目指すべき将来像と大きな方針
(3) 地域づくりの方針	土地利用や都市施設等など、分野別の地域課題への対応方針
3 面河地域	※久万地域と同様
4 美川地域	※久万地域と同様
5 柳谷地域	※久万地域と同様
第5章 実現化方策	
1 目指すべき都市像の実現に向けて	近年の都市計画の動向を踏まえた方向性など
2 今後のまちづくりの進め方	町民との協働のまちづくり、エリアマネジメントの支援など

第1回策定委員会

第2回(主な項目の抜粋)

第3回

第4回

■立地適正化計画の項目と記載内容 (案)

項目	記載内容の概要
序章 はじめに	計画の背景と目的、位置づけ、対象範囲、目標年次
第1章 現状と課題	
1 久万高原町の現状	自然・歴史・社会的条件の整理 (都市計画区域内が主)
2 町民意向調査	町民アンケート調査・高校生アンケート調査の結果
3 都市づくりの課題	主要課題の整理
第2章 立地の適正化に関する基本方針	
1 都市づくりの理念・目標	都市づくりの基本的な考え方・テーマ
2 将来フレーム	目標年次の将来人口、将来的な市街地の規模
3 将来都市構造	目指すべき都市像のイメージ及び拠点・軸・ゾーンの考え方
第3章 居住及び都市機能の誘導に関する事項	
1 居住誘導区域	
(1) 基本的な考え方	居住誘導区域の設定方針、設定基準
(2) 居住誘導区域の設定	居住誘導区域の図示
2 都市機能誘導区域	
(1) 基本的な考え方	都市機能誘導区域の設定方針、設定基準
(2) 都市機能誘導区域の設定	都市機能誘導区域の図示
(3) 都市機能増進施設の設定	対象とする施設の考え方、誘導施設の設定
3 誘導施策	都市機能誘導区域、居住誘導区域内で実施する施策、届出制度の運用
第4章 防災指針	災害ハザードエリアにおける居住誘導区域の設定の考え方 ※記載内容は要検討
第5章 目標値等の設定	
1 目標値の設定	数値目標の設定
2 計画の評価	施策の達成状況に関する評価方法

第1回

第2回

第3回

第4回

□: 共通部分+目指すべき都市像

1. 目指すべき都市像について

共通

2. 分野別の整備方針について

都市
マス

3. 誘導区域の設定について

立地
適正

4. 誘導施策・防災指針等の事例紹介

立地
適正

- ▶ 前回は久万高原町の現状、住民アンケート調査、関係課ヒアリング結果等を基に主要課題を整理

【久万高原町の現状】

- ・人口・世帯数
- ・産業
- ・土地利用
- ・都市施設・都市機能
- ・災害リスク など

【住民アンケート調査】

- ・町民アンケート結果
- ・高校生アンケート結果

【関係課ヒアリング結果等】

- ・関係課ヒアリング結果
- ・上位・関連計画

【都市づくりの主要課題】

- ①持続可能な生活圏域の確保
- ②地域の実情に応じた移動手段の維持・確保
- ③若年層の流出抑制・確保
- ④公共施設等の老朽化への対応
- ⑤増大する災害リスクへの対応
- ⑥地域資源の保全・活用
- ⑦多様な主体との連携体制の強化

課題① 持続可能な生活圏域の確保

【現状等の整理】

- ✓ 久万高原町は県下で人口密度が最も低く、人口減少は今後も続くと予測
- ✓ 日用品の買い物等の多くは旧久万町で行われているが「店舗やサービス施設の不足」や「空き店舗等の増加」が指摘
- ✓ 旧久万町では住宅需要が比較的高く、若い層からも将来住みたい場所として挙げられているほか、郊外においても支所周辺では一定の人口集積がある

【課題抽出の視点】

医療・介護等の担い手不足による住民の生活を支えるサービス低下が懸念

立地に必要な人口規模を下回ると、地域から生活サービス施設の撤退が進み、生活利便性が低下するおそれ

利便性が高い町中心部である久万地域の高い住宅需要や支所周辺等における一定の人口集積

今後も生活の質を維持・向上を図るため、**拠点地域に日常生活に必要な都市機能が維持・確保できる一定程度の人口密度を確保し、医療・福祉施設や商業施設、子育て支援施設等と居住地が近接した持続可能な生活圏域の確保が必要となります**

課題② 地域の実情に応じた移動手段の維持・確保

【現状等の整理】

- ✓ 高齢化は著しく進行しており、現在の交通手段の多くは自家用であるが、10年後の日常生活の移動手段については不安を感じている住民が多い
- ✓ 久万高原町の主要な公共交通ネットワークはバス路線であり、公共交通空白地域では公共交通空白有償運送が地域運営協議会により実施
- ✓ 利用者のニーズや社会情勢に見合った代替的な手段も含めた交通サービスを検討

【課題抽出の視点】

▶ 今後は運転免許証の自主返納等により、日常生活における移動が困難となる交通弱者も増加することが予測

▶ バス利用圏は用途地域内は概ねカバーできているものの、交通空白地帯も存在

▶ 地域住民や関係団体等と連携し、地域の実情に応じた移動手段を検討中

公共交通による移動を支えることは、地域間を結び日常生活の利便性向上に資するためだけでなく、高齢者の健康づくりの面からも重要であるため、**交通事業者、地域住民、行政等が連携し、地域の実情に応じた移動手段の維持・確保を図り**、公共交通を軸とした「歩いて暮らせるまちづくり」への転換を行うことが必要となります

課題③ 若年層の流出抑制・確保

【現状等の整理】

- ✓ 空き家数は久万地域が、空き家率は面河地域で最も多い
- ✓ 若い世代では、他の市町村から転入してきた割合が高いが転出の意向も高い
- ✓ 高校生が将来久万高原町に住みたくない理由として「希望する就職先がない」や「店舗・施設等が充実している都市で暮らしたい」等が多く挙げられている
- ✓ 町では移住者向けに「移住者住宅改修事業」や「お試し住宅」、コワーキングスペースの提供も検討
- ✓ 今後は光ファイバー回線の整備を推進

【課題抽出の視点】

- ▶ 店舗や働く場所等の不足による若年層の居住地としての魅力が低下
- ▶ 人口減少により今後も空き家等の低未利用地は増加することが想定
- ▶ 町では公共施設等を活用した移住・定住施策の推進
- ▶ 若い世代を中心に不満があった通信環境の改善も見込まれている

今後は新しい生活様式を踏まえ、居住誘導施策と連携した空家等の活用による地方移住やテレワーク等に対応した住む場所・働く場所の提供を行い、**若年層の流出抑制・確保を図るなど、移住・定住施策と連携した地方創生の取組を推進**する必要があります

課題④ 公共施設等の老朽化への対応

【現状等の整理】

- ✓ 公共施設が昭和50年～平成16年頃にかけて集中的に整備
- ✓ 県下において一人あたり最長である道路網（整備率56.7%）を有している
- ✓ 生産年齢人口の減少や高齢化の進行
- ✓ 老朽化が進行している町立病院では、今後建替えを含め検討中

【課題抽出の視点】

公共施設や都市基盤施設等の老朽化が進行し、安全性の低下や維持管理・更新費の増大が懸念

税収の低下や社会保障費の増加により、財政状況はさらに厳しくなると予測

今後の公共施設の更新等を契機とし、発生が見込まれる空き地等の低未利用地を活用する視点が必要

老朽化が進行する施設等の適切な維持管理を図りながら、真に必要な施設の整備は推進するなど、**財政制約下での効率的なストック活用に向けた都市構造への転換**を図るとともに、町立病院の建替え検討など、**公共施設の再編をまちの活性化の契機**として捉え、低未利用地を有効活用をすることが必要となります

課題⑤ 増大する災害リスクへの対応

【現状等の整理】

- ✓ 久万高原町は、標高1,000mを超える四国山地に囲まれた山間地域
- ✓ 南海トラフ巨大地震では、震度6強の発生や一部で液状化の発生が想定
- ✓ 久万川やため池の氾濫解析を実施
- ✓ 道路や下水道等では耐震化事業を推進
- ✓ SNS等を活用した災害の周知やハザードマップの配布

【課題抽出の視点】

▶ 土砂災害や河川氾濫、南海トラフ巨大地震等による液状化の発生等が懸念

▶ 町中心部でも様々な災害発生が懸念

▶ 町ではハード対策と併せてソフト対策も実施

近年、激甚化する災害に対応するため、引き続きハード・ソフト両面からの備えを推進するとともに、今後は災害リスクの高い地域における対策を実施するなど、**防災まちづくりの取組**が求められています
特に、利便性が高く人口の集積を図る中心部においては、**様々な災害リスクを踏まえた方針**が必要となります

課題⑥ 地域資源の保全・活用

【現状等の整理】

- ✓ 四国カルストや面河溪等の自然環境
- ✓ 国指定史跡である上黒岩岩陰遺跡や札所である大宝寺・岩屋寺等の歴史・文化的資源
- ✓ かつて宿場町や遍路道として栄えてきた久万街道等の街並み
- ✓ スポーツ・レクリエーション施設のほか、道の駅「天空の郷さんさん」や「まちなか交流館」がある
- ✓ 若い世代からは「レジャー・娯楽機能」の充実や「イベントの多く楽しいまち」が望まれている

【課題抽出の視点】

▶ 豊かな自然環境や歴史・文化資源など多様な地域資源・景観資源を有している

▶ スポーツ・レクリエーション施設や観光施設は利用者数が減少傾向にあり、更なる充実や賑わいが求められている

地域に存在する多様な地域資源を保全・活用し、地域の魅力の向上を図るとともに、観光施策と連携することでまちのにぎわい創出を図ります

課題⑦ 多様な主体との連携体制の強化

【現状等の整理】

- ✓ 概ね旧小学校区を単位とした「地域運営協議会」により、住民、役場、関係団体等が一体となり、地域課題の解決や資源の活用に取り組んでいる
- ✓ 今後のまちづくりの進め方として、「住民と行政が適切な役割分担を協議し、進めていくべき」や「今後も行政運営を継続していくために、行政サービスをある程度廃止・縮小する必要がある」との意見が多い

【課題抽出の視点】

▶ 今後の人口減少・少子高齢化の進行により、まちづくり活動の担い手不足が懸念

▶ 人口流動やアンケート結果（日用品以外の買い物など）から近隣自治体とのつながりがある

今後も地域活動の担い手として「**地域運営協議会**」の**設置支援や連携強化**を図るとともに、移住者や地域外の人材も含め、地域内外の担い手を確保していくことが求められます

また、効率的かつ効果的な公共サービスを提供するため、近隣自治体間との連携を更に深め、**広域的な生活圏に必要となるサービスの提供**を図る必要があります

▶ 前回策定委員会でいただいた主な意見 （議事録は資料2参照）

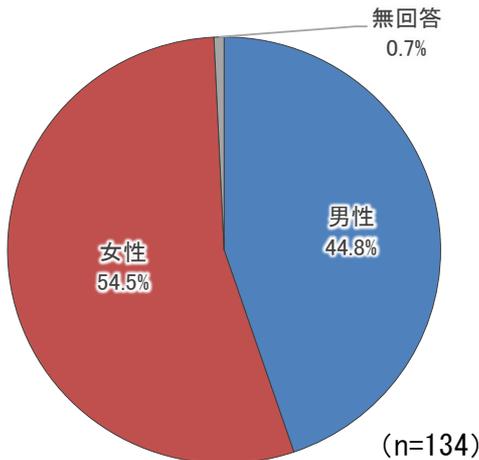
主な意見（第1回策定委員会）	本日の委員会における対応
都市計画区域外の地域の今後のあり方や方向性についても検討するのか	目指すべき都市像（将来都市構造など）で都市計画区域外の方向性についても図示 （※地域別構想については次回説明）
土砂災害や浸水想定など、町中心部における災害リスクや対策については、今後、議論されるのか	防災指針の他市事例を収集 （※具体的な防災指針は次回説明）
高校生アンケート調査だけでなく、中学生を対象としたアンケート調査も実施してはどうか	総合計画策定時（R2.5）のアンケート調査の結果分析（次ページ以降で概要説明）
現在策定中の第2次久万高原町総合計画（後期基本計画）では、木質バイオマス発電に取り組んでいくとしているが、都市計画マスタープランでも位置づけはできるのか	分野別の整備方針（4 自然的環境保全・活用の方針）で木質バイオマス発電に関する内容を記載

※上記以外のその他意見についても、施策への位置づけや事例収集などを通じて適宜対応を行っています

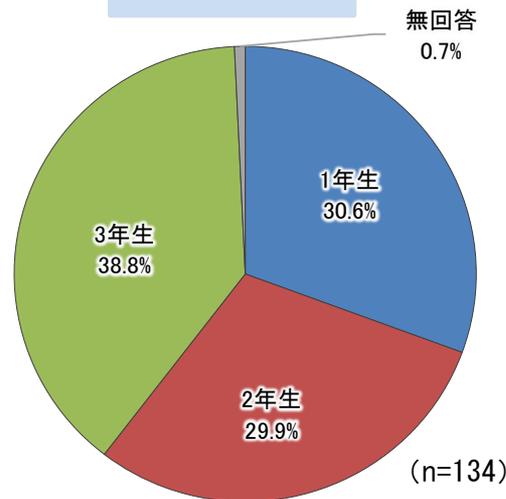
▶ 中学生を対象としたアンケート調査（令和2年5月実施）の結果概要は以下のとおり

調査対象	134名：久万中学校（118名）と美川中学校（15名）の生徒 ※無回答：1名
設問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本属性（問1～問4） ・ 暮らしやすさ（問5～問8） ・ 地域活動（問9～問10） ・ これからのまちと自身の将来（問11～問13） ・ 自由意見（問14）

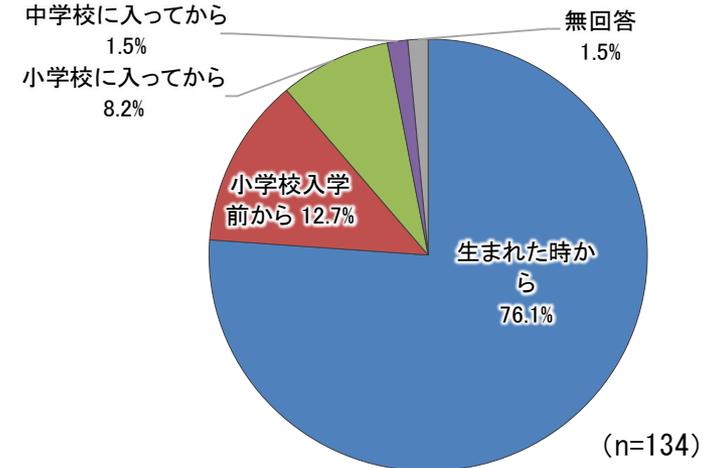
性別



学年

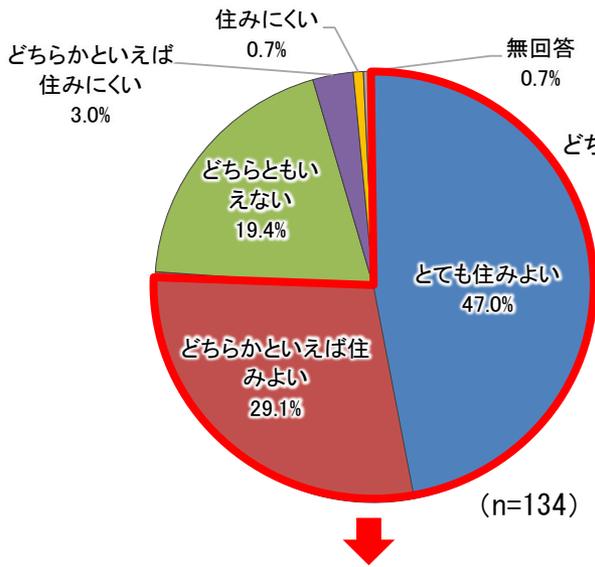


居住歴



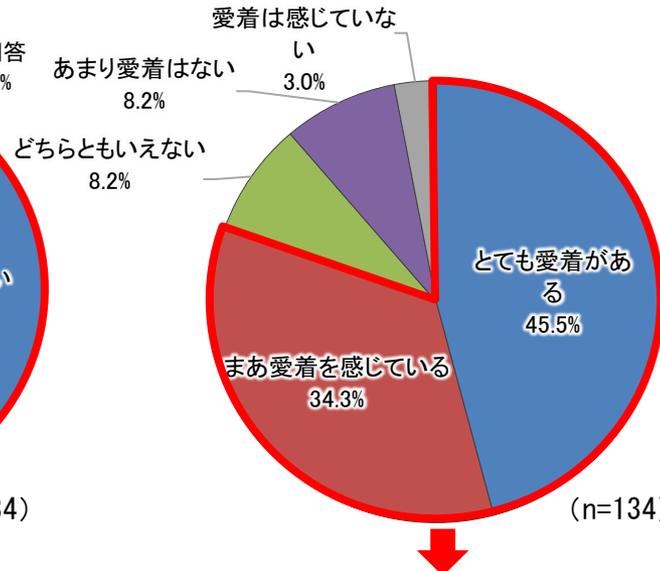
- ▶ **7割以上の生徒が「住みよいまち」「愛着がある」と回答**
- ▶ **自慢できるものを「美しい自然環境」と回答した生徒は9割以上**

町の住みよさ



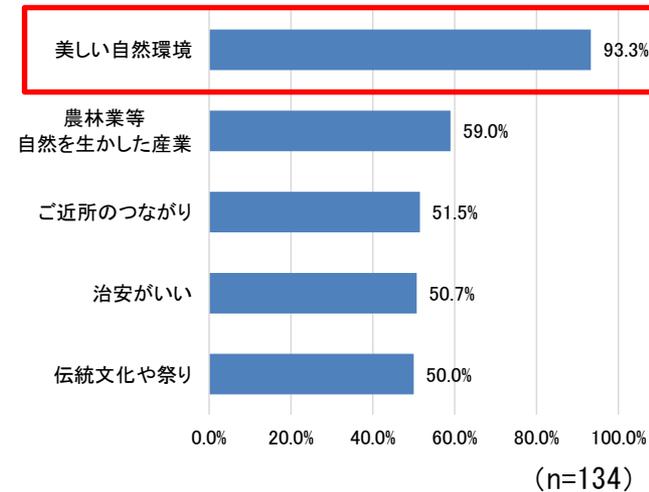
「とても住みよい」 + 「どちらかといえば住みよい」
: 76.1%

愛着を感じているか



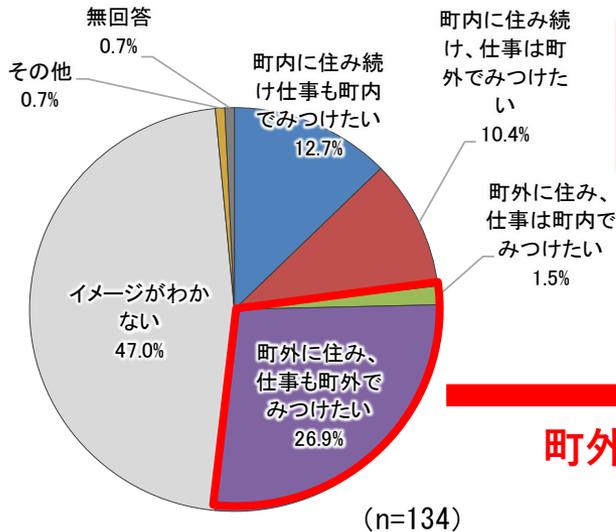
「とても愛着がある」 + 「まあ愛着を感じている」
: 79.8%

久万高原町で自慢できるもの (上位5項目)

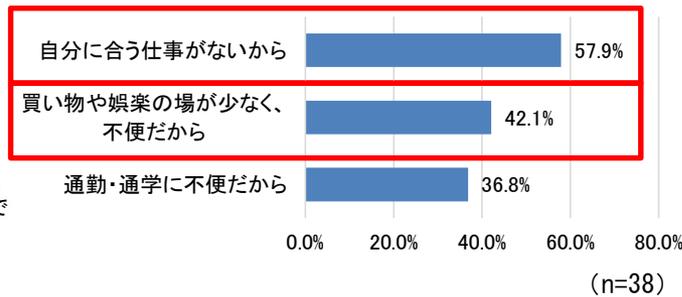


- ▶ 将来については、「**久万高原町以外の場所に住み、仕事も久万高原町以外の場所で見つきたい**」が最も多い
- ▶ その理由は、「**自分に合う仕事がないから**」が最も多い（将来したい仕事の上位は、医療関係、公務員、福祉関係）

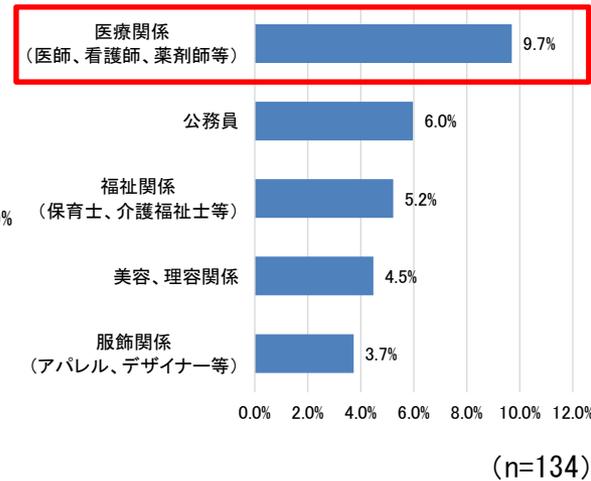
働く時の将来イメージ



町外に住みたい理由 (上位3項目)



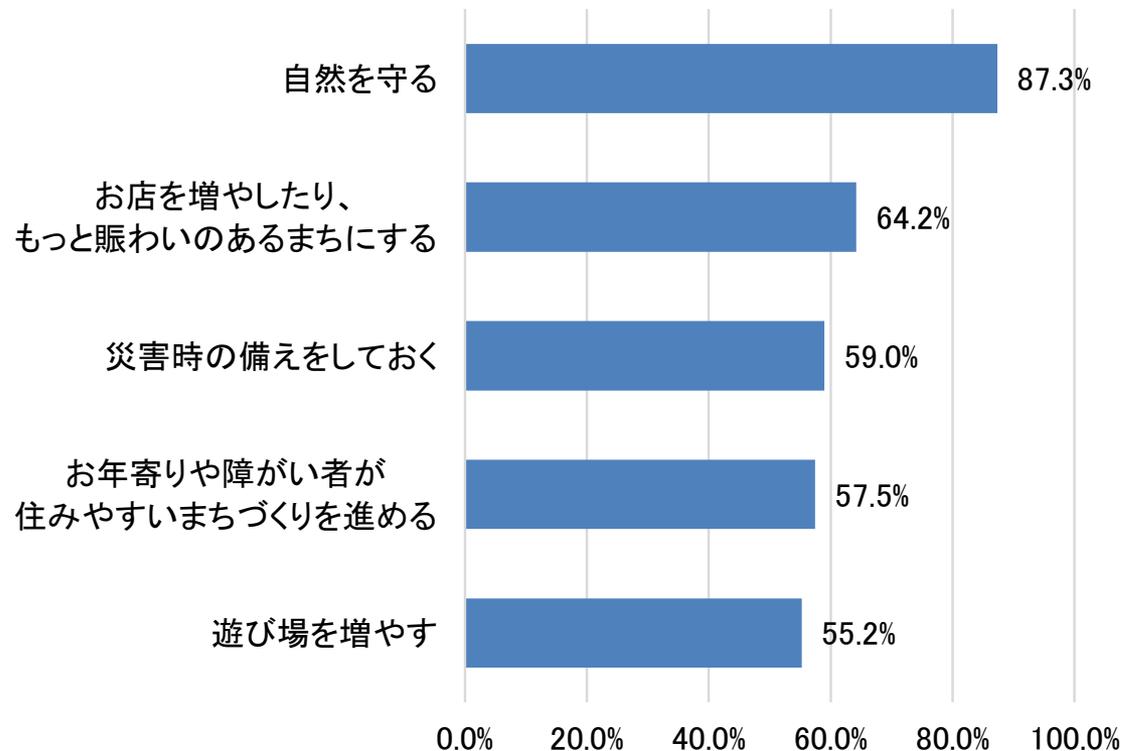
将来したい仕事



町外に住んで働きたい
: 38人

- ▶ 久万高原町の将来に向けて大事だと思うことは、「**自然を守る**」、「**もっとにぎわいのあるまちにする**」、「**災害時の備えをしておく**」など

将来に向けて大事だと思うことは何か



(n=134)

1. 目指すべき都市像について

- ▶ 『目指すべき都市像』の記載事項は以下のとおり

（1）都市づくりの理念・目標

- ・ 目指すべき都市の方向性について記載

（2）将来フレーム

- ・ 将来人口の設定

（3）将来都市構造

- ・ 将来の都市のイメージを記載

■ 都市づくりの理念

- ▶ 最上位計画である「第2次久万高原町総合計画」では、町の将来像として以下のとおり定めています

将来像

ひと・里・森がふれあい ともに輝く 元気なまち

～ 地域が手を取りあい まちを次代へ ～

「ひと」：まちに生きる人々、また地域外から訪れ交流する人々

「里」：地域や社会

「森」：森林や自然

「～ 地域が手を取りあい まちを次代へ～」：時代を乗り越える新たな自治体制

出典：第2次久万高原町総合計画

※ 総合計画と同様に上位計画である「久万都市計画区域マスタープラン」のまちづくりの目標も同様

→ **総合計画の将来像を継承し、「都市づくりの理念」として設定**

■ 都市づくりの目標

▶ 主要課題を踏まえて、3つの目標を設定

【都市づくりの主要課題】

①持続可能な生活圏域の確保

②地域の実情に応じた移動手段の維持・確保

③若年層の流出抑制・確保

④公共施設等の老朽化への対応

⑤増大する災害リスクへの対応

⑥地域資源の保全・活用

⑦多様な主体との連携体制の強化

目標 1 歩いて暮らせるまちづくりと拠点間ネットワークの形成

目標 2 次世代の担い手が楽しく暮らせるまちづくり

目標 3 「高原ブランド」を活かした交流を育むまちづくり

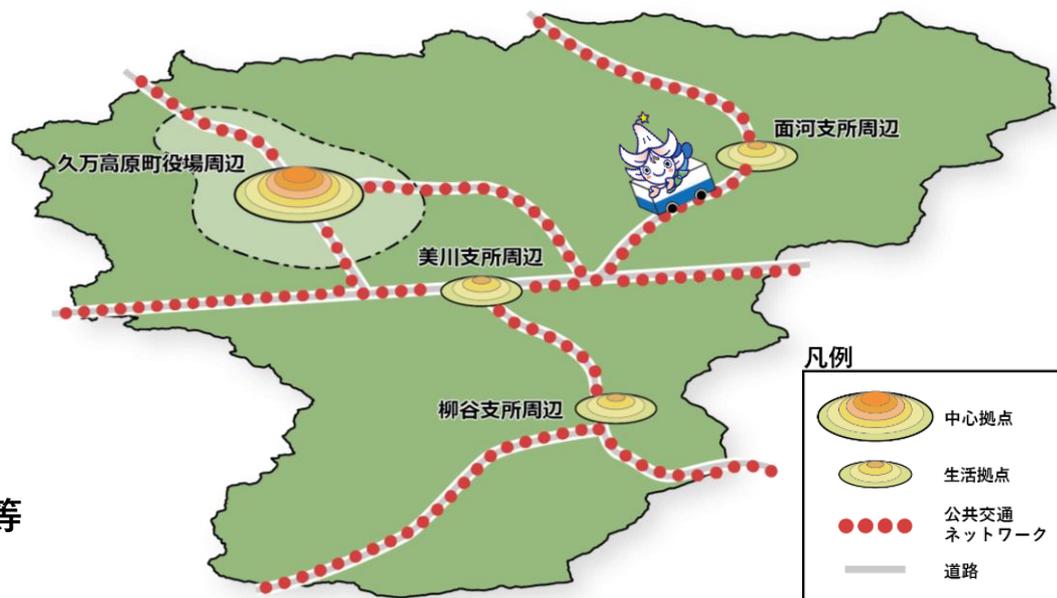
目標 4 安全・安心に住み続けられるまちづくり

目標1 歩いて暮らせるまちづくりと拠点間ネットワークの形成

- ▶ 一定程度の人口密度が確保された区域に**行政・介護福祉・子育て・商業・医療・教育などの都市機能を集約した拠点を形成**することにより、日常生活に必要なサービスを身近に享受できる、歩いて暮らせるまちづくりを目指します
- ▶ 町内の主な公共交通であるバス路線を維持・活用する観点から、**交通結節点であるバス停周辺に拠点を設定**するとともに、多様な主体と連携し、地域の実情等に応じた移動手段の導入について検討を行うなど、**拠点間ネットワークの形成**を推進します

※各集落から生活拠点までは地域運営協議会等による支援を検討

ネットワーク化された拠点の形成イメージ



【対応する課題】

①持続可能な生活圏域の確保

②地域の実情に応じた移動手段の維持・確保

⑦多様な主体との連携体制の強化

目標2 次世代の担い手が楽しく暮らせるまちづくり

- ▶ 町外へ出た若年層でも再び帰ってきたいと思えるような魅力的なまちづくりを推進するため、**地域に必要な機能の充実によるまちの賑わい創出を図るとともに**、林業などの町を代表する産業基盤の担い手不足の解消するため、**誘導施策と連動した産業の継承に向けた取組**を推進します。
- ▶ ウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代の働き方として、多様な働き方への期待が高まっている傾向を踏まえつつ、**豊かな自然環境に囲まれている本町の特性**や増加が懸念されている空き家・空き地等の低未利用地を活用し、**テレワーク等の「新しい働き方」**に対応したまちづくりを推進します



お試し住宅（父二峰住宅、面河渋草住宅）

【対応する課題】

③若年層の流出抑制・確保

⑥地域資源の保全・活用

⑦多様な主体との連携体制の強化

目標3 「高原ブランド」を活かした交流を育むまちづくり

- ▶ **高原ブランド**（トマト・ピーマンなどの高原野菜、久万高原天体観測館、面河山岳博物館などの文化施設、道の駅 天空の郷さんさん、自然景勝地などの「高原」イメージを引き立てる、本町独自の魅力ある地域資源）**を活かした交流**により、地域振興や町民のまちへの誇りを醸成します
- ▶ 石鎚山や面河溪、四国カルスト等の町を代表する自然景勝地のほか、キャンプ場等の**自然環境を活かした多様なレクリエーション活動**ができる場の**維持・充実**を図るとともに、松山市等の都市圏から近いという地理的条件を活かし、定住人口のみならず、**関係人口の増加に向けて戦略的に取り組み**、地域活力の向上を図ります



道の駅 天空の郷さんさん

【対応する課題】

③若年層の流出抑制・確保

⑥地域資源の保全・活用

⑦多様な主体との連携体制の強化

目標 3

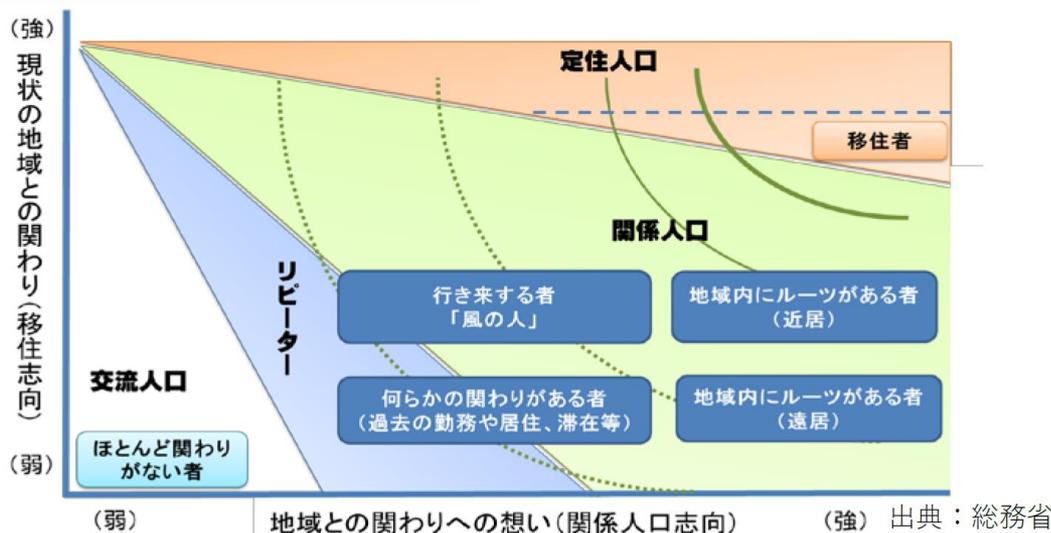
「高原ブランド」を活かした交流を育むまちづくり

Point 『関係人口』とは

- ▶ 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、**地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します**

- ▶ 地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、**地域外の人材が地域づくりの担い手**となることが期待されています

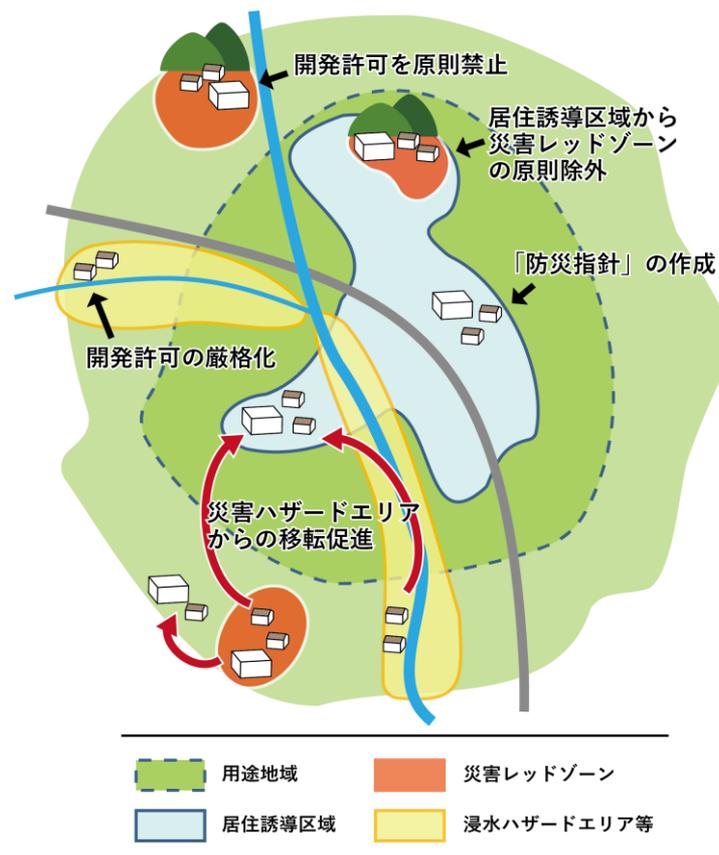
「関係人口」のイメージ図



目標4 安全・安心に住み続けられるまちづくり

- ▶ 町民がいつまでも安全・安心に暮らせるまちづくりを実現するため、今後、発生するおそれのある災害を踏まえた誘導区域の設定を行うとともに、住宅の耐震化・不燃化の促進や空き家等対策を推進するなど、**ハード・ソフト施策による総合的な防災・減災対策**を推進します
- ▶ 老朽化が進行する公共施設等については、**財政制約下での効率的なストック活用や長寿命化**に取り組むとともに、**建築後40年が経過する町立病院の建替え検討を契機として、多世代が安心して生活できる地域医療の維持・充実を図る**など、**都市機能の維持・強化を図ります**

防災・減災対策の推進イメージ



【対応する課題】

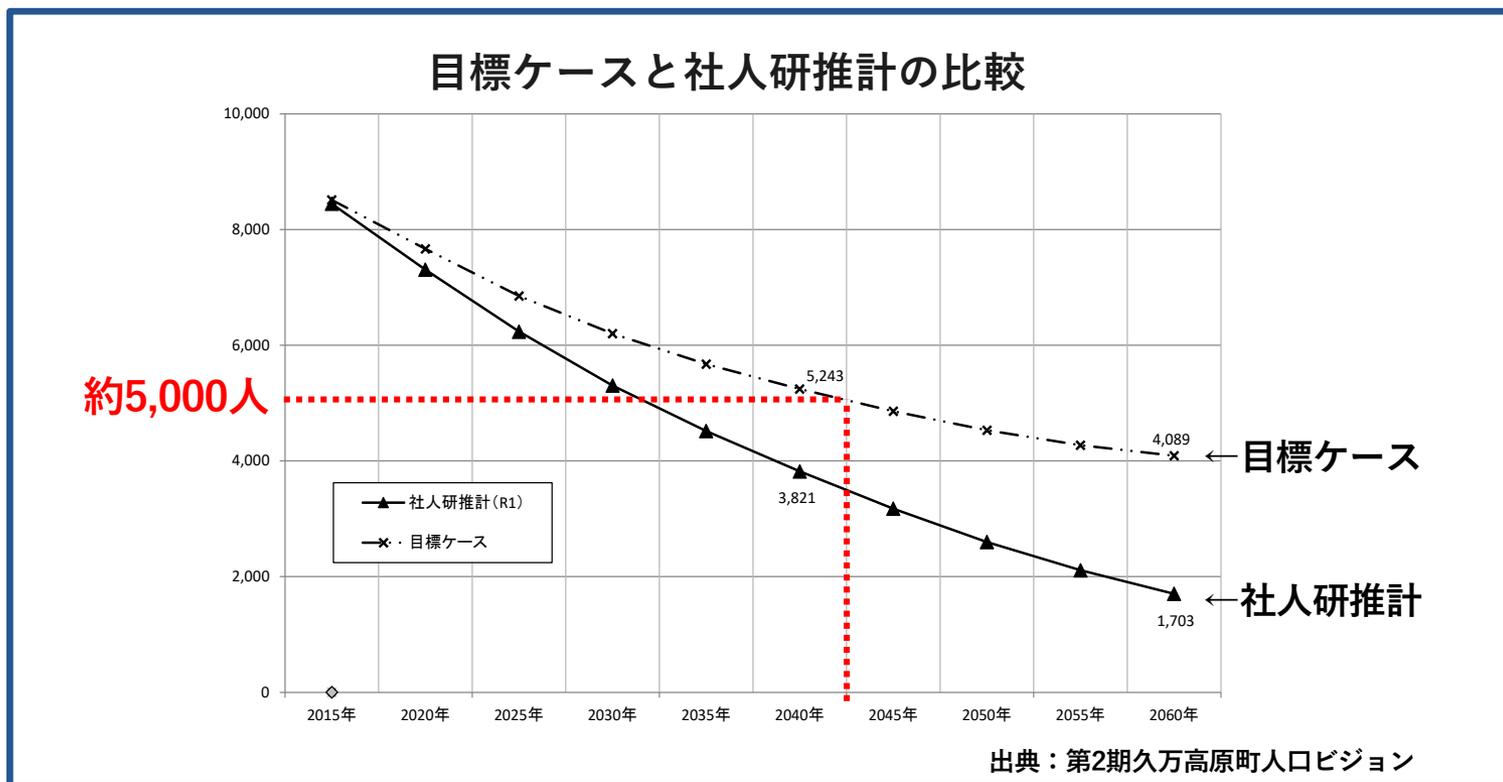
④ 公共施設等の老朽化への対応

⑤ 増大する災害リスクへの対応

⑦ 多様な主体との連携体制の強化

将来人口

- ▶ 町の今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示している『**第2期久万高原町人口ビジョン**』（令和3年3月）に基づき設定します



→ 目標年次である**2041年の将来人口を約5,000人**とします

■ 将来人口

▶ 将来人口（約5,000人）を地域で按分すると以下のとおり

（参考）地域毎の将来人口

地域名	将来人口		【参考】 R3.6.22時点
	目標人口※1 (2041年)	社人研推計※2 (2040年)	
久万地域	約3,710人	約2,840人	5,410人
美川地域	約690人	約530人	1,279人
面河地域	約270人	約200人	630人
柳谷地域	約330人	約250人	460人
町全域	約5,000人	3,820人	7,779人

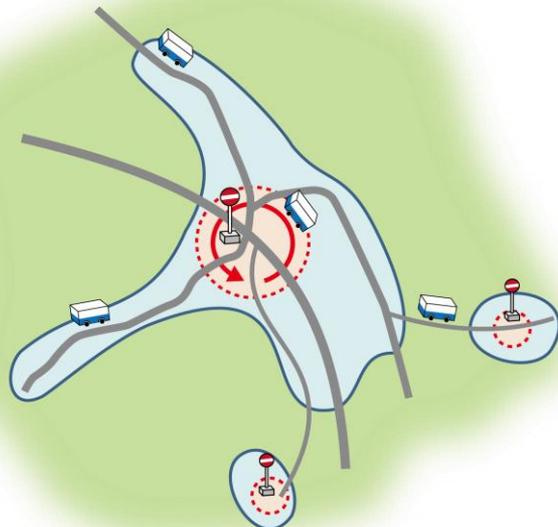
※1：目標人口5,000人を※2の割合で按分した値

※2：国立社会保障・人口問題研究所における2040年の将来人口推計を国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV2」を用いて100メッシュで表示し、地域毎に按分集計した参考値

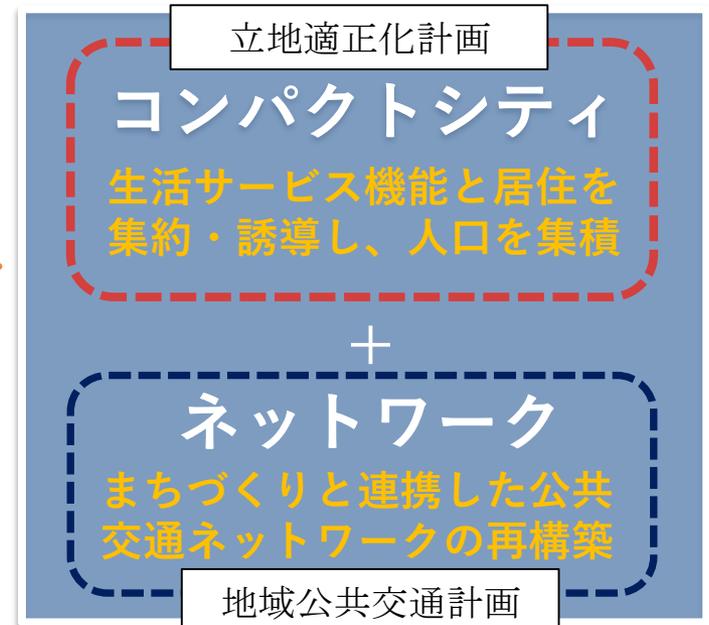
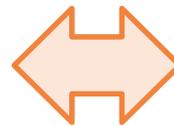
▶ 国では都市が抱える課題に対応するため『コンパクト・プラス・ネットワーク』の都市構造による都市づくりを推進

Point 『コンパクト・プラス・ネットワーク』とは (前回委員会資料より)

▶ 居住や都市機能の集積による「密度の経済」を通じて、「住民の生活利便性の維持・向上」や「行政サービスの効率化等による行政コストの削減」などを実現



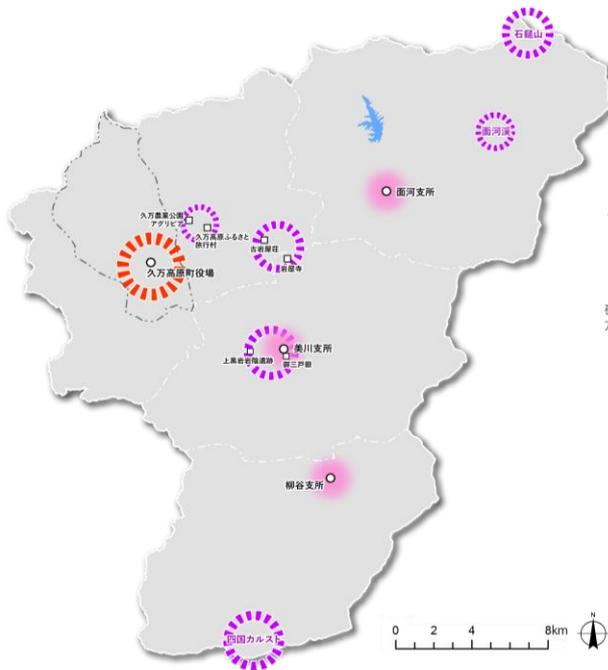
中心拠点や生活拠点が利便性の高い公共交通で結ばれた多極ネットワーク型コンパクトシティ



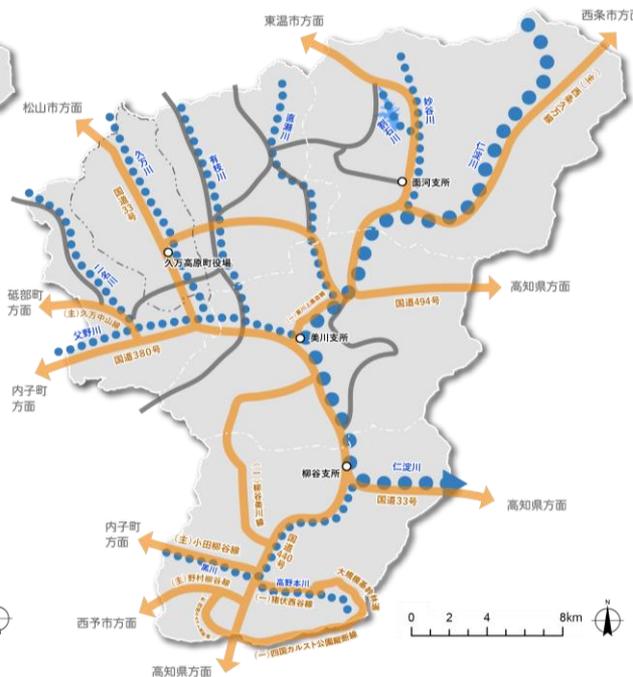
▶ 以下の3つの要素による将来都市構造を設定

- ① 都市機能が集積し都市活動を支える【拠点】
- ② それらを結びつける交通網や自然環境等からなる【軸】
- ③ 土地利用の基本的な方向を定める【ゾーン】

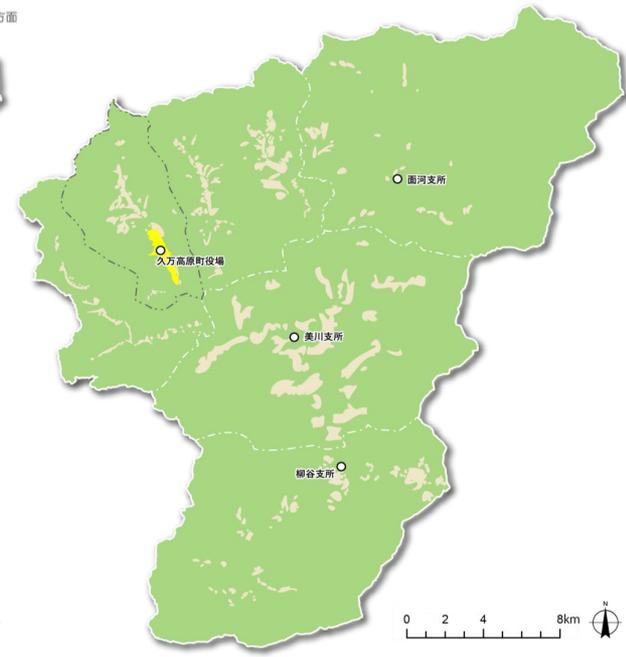
【拠点】



【軸】



【ゾーン】



① 拠点

中心拠点

久万高原町役場
周辺

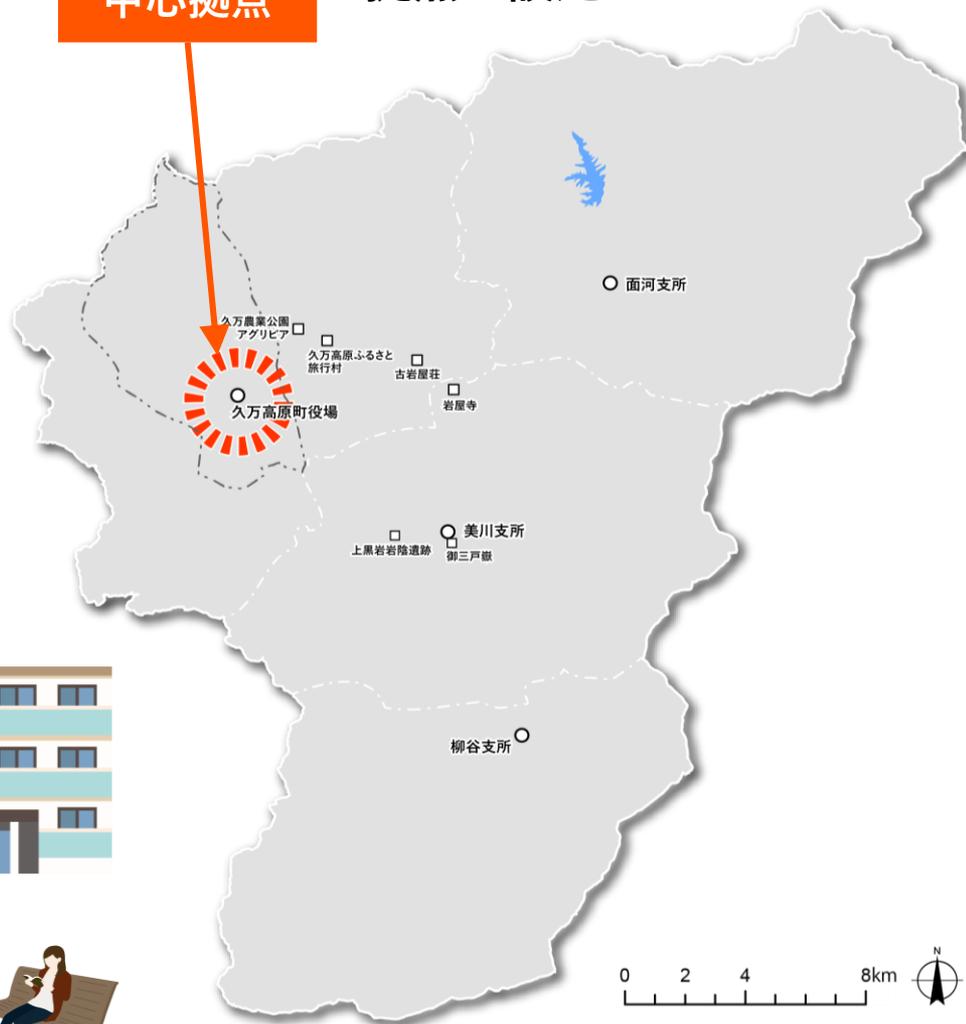
町の中心部として利便性が高く
賑わいの創出を図る拠点

町全域の暮らしに必要な商業、
医療・福祉等の多様な都市機能
の充実とまちなか居住を推進し
ます



中心拠点

拠点の設定



① 拠点

生活拠点

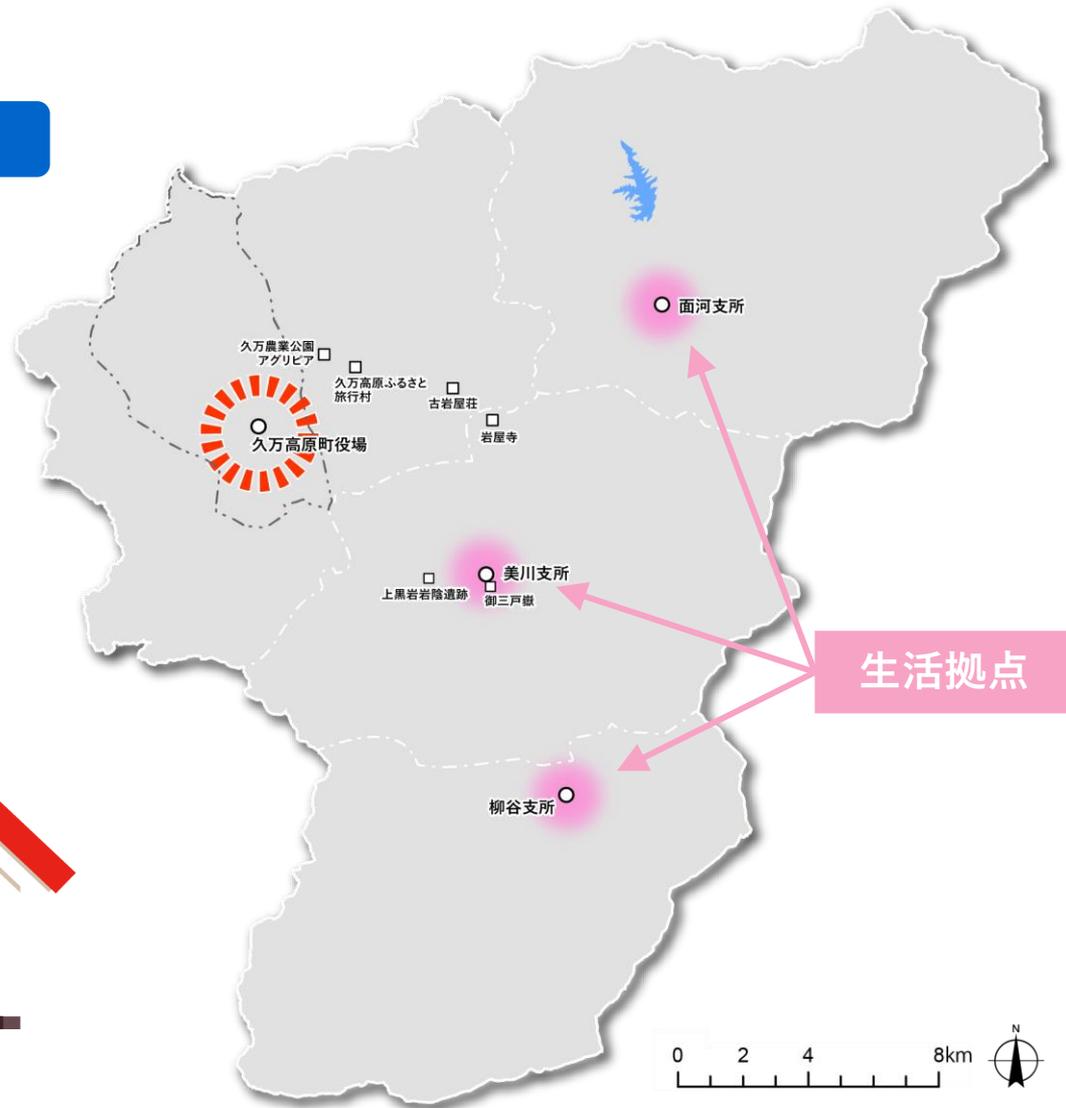
支所周辺

日常生活圏を対象とした
各地域における拠点

中心拠点との連携を図りつつ、日常生活に必要なサービス施設等の維持・確保を図り、地域コミュニティの維持を推進します



拠点の設定



① 拠点

自然・文化交流拠点

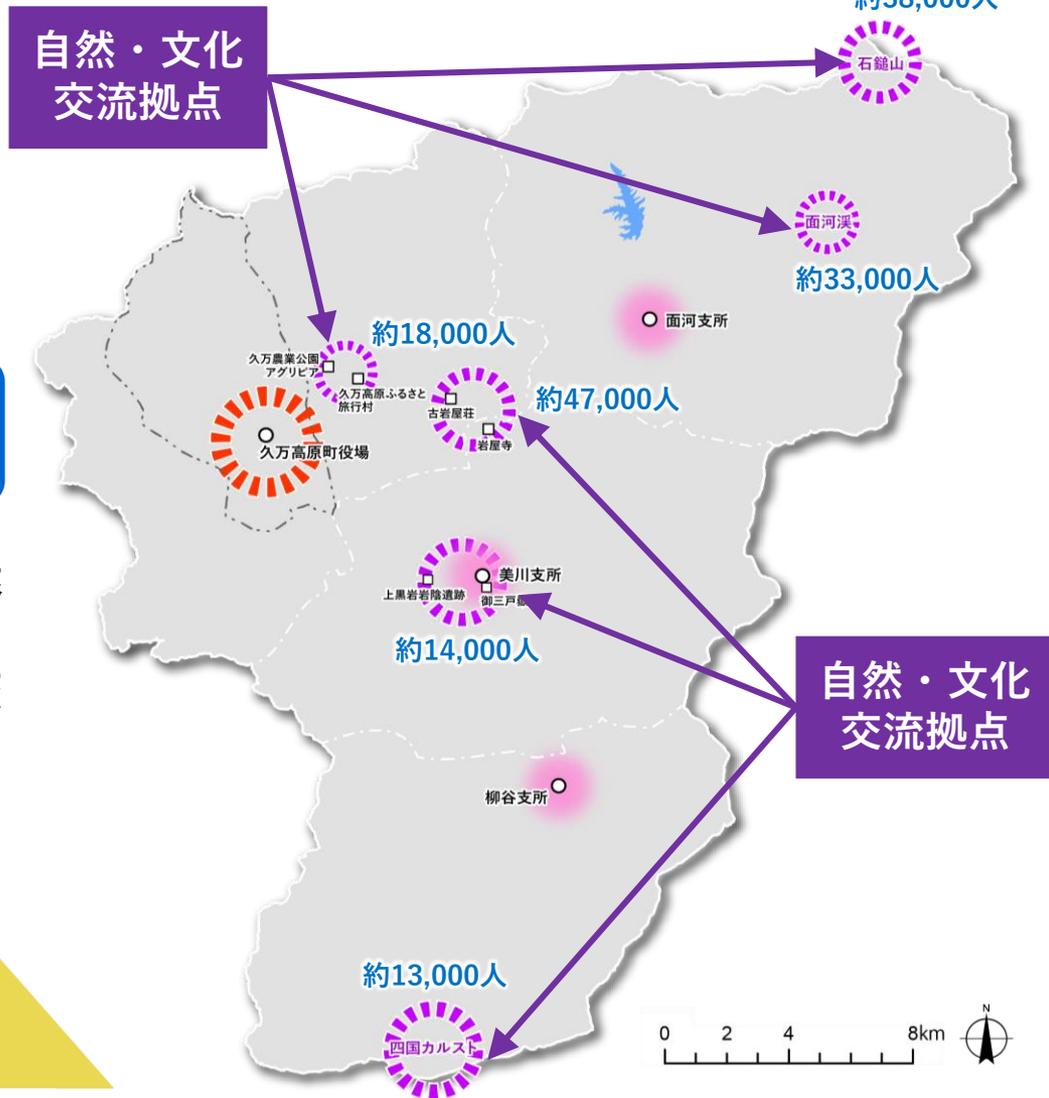
レクリエーションの場として
町内外の交流を促進する拠点

一定の観光客数（年間約1万人以上）が
見込まれるレクリエーション活動の場

久万高原町が保有する豊かな自然環境や歴史・文化的資源などの多様な地域資源を活用し、多世代による交流活動を牽引します



拠点の設定



※青字は直近5年間（H27～R1）の年平均観光入込客数（各拠点内で最も多い値）

② 軸

↔ **広域連携軸** 国道
主要地方道など

主に広域的な連携・相互補完を担う幹線道路

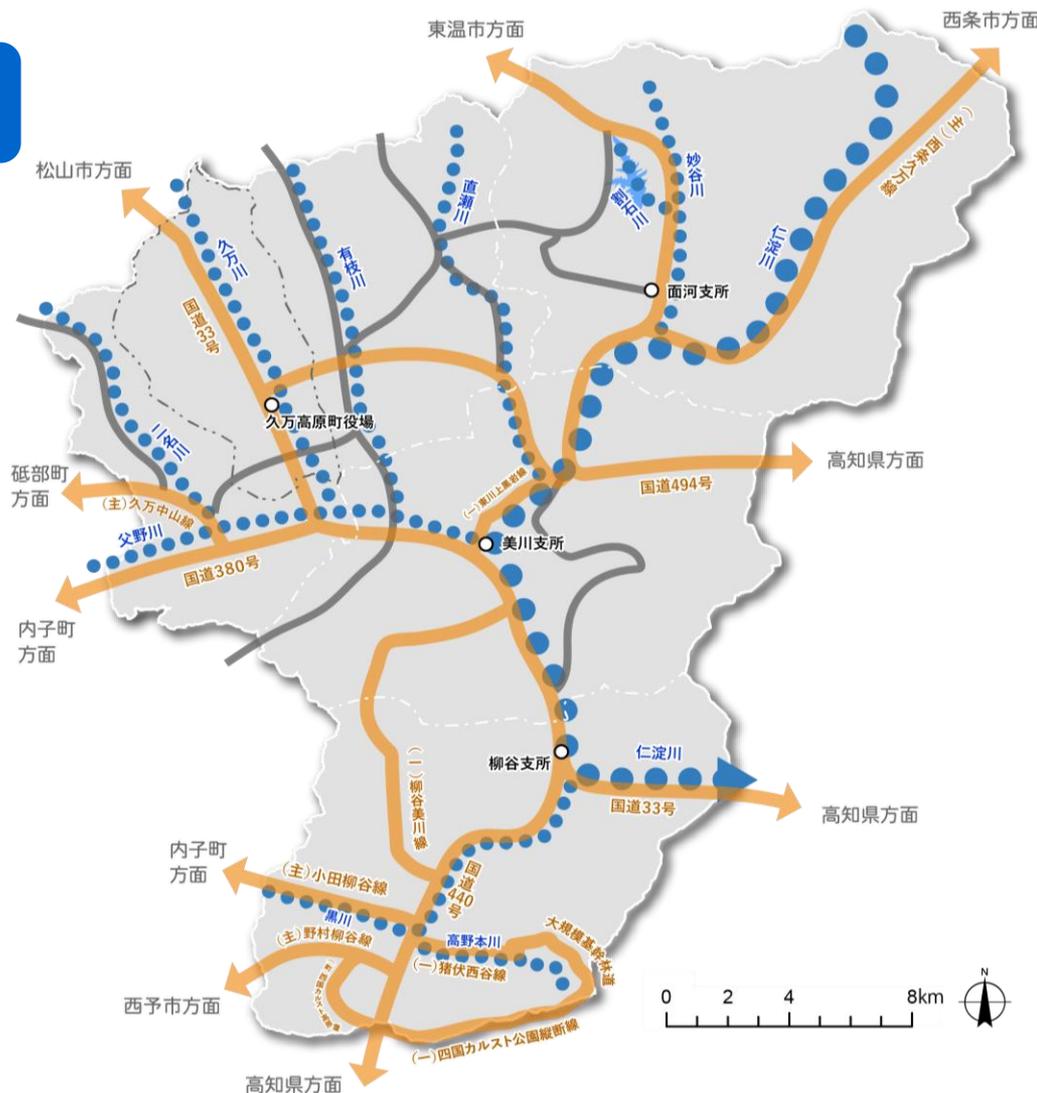
↔ **地域連携軸** 一般県道

主に町内の拠点と周辺地域間の相互補完・機能分担を支援・連携する道路

◆◆◆ **自然環境軸** 主要河川

生活に潤いを与え、良好な自然環境と景観の保全を図る軸

軸の設定



③ ゾーン

市街地ゾーン

用途地域指定
エリア

都市の魅力向上の観点や環境負荷の低減等から、コンパクトな市街地の形成と快適な住環境の創出を図るゾーン

農業集落ゾーン

農地、
集落地など

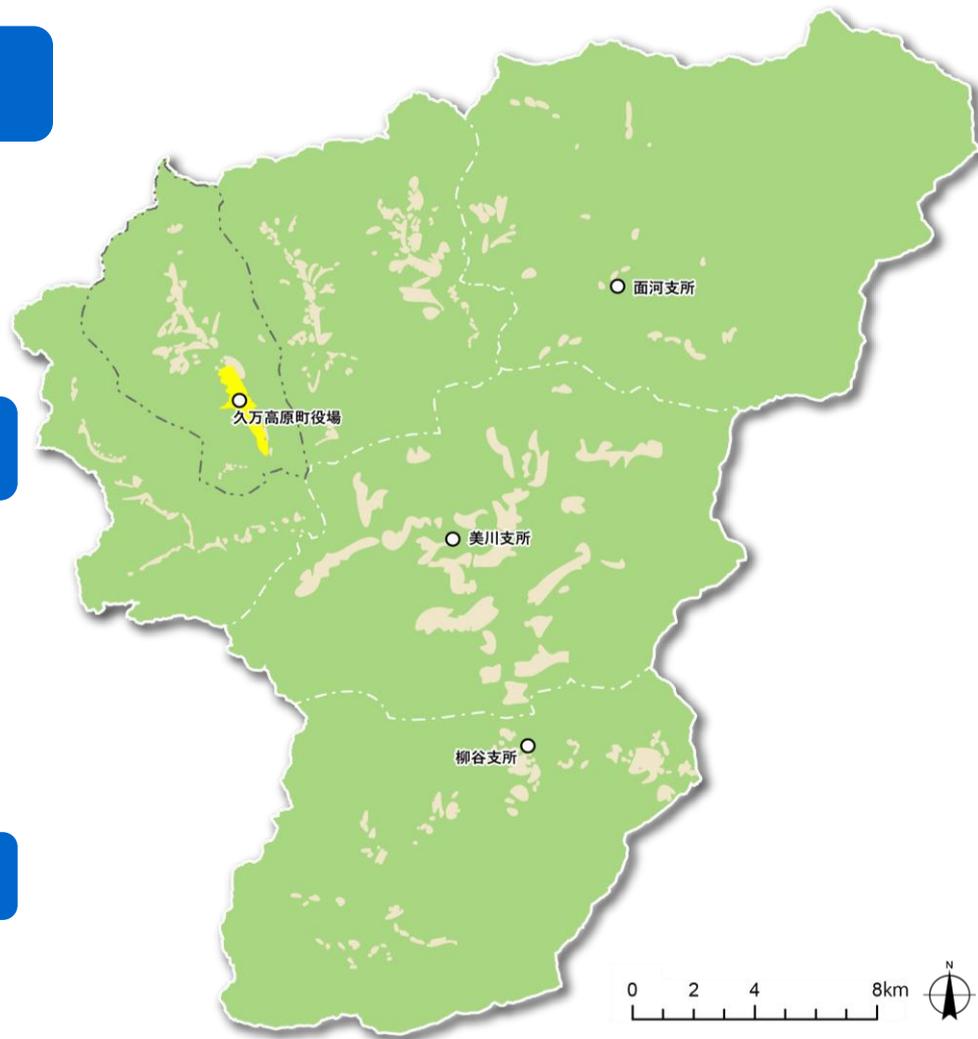
農業の振興や優良農地の保全を図るとともに、既存集落地における生活環境の維持に努め、田園環境と生活の共生を図るゾーン

森林ゾーン

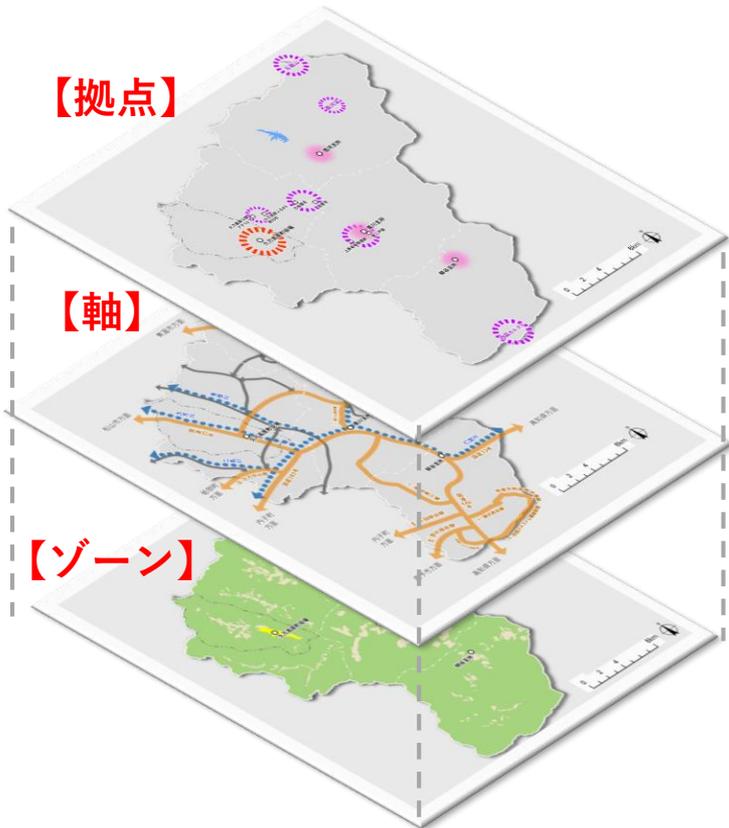
山地、丘陵地など

都市生活に潤いを与えてくれる大切な自然環境として、適切な保全・活用を図るゾーン

ゾーンの設定



▶ 3つの要素を重ね合わせて設定



拠点	軸	ゾーン		
中心拠点	広域連携軸	市街地ゾーン	役場・支所	行政界
生活拠点	地域連携軸	田園集落ゾーン	主要な施設等	地域界
自然・文化交流拠点	自然環境軸	森林ゾーン	水辺地	都市計画区域界

将来都市構造図

